



本部 立教188年 お節会
1月5日〔日〕～7日〔火〕
10時～13時

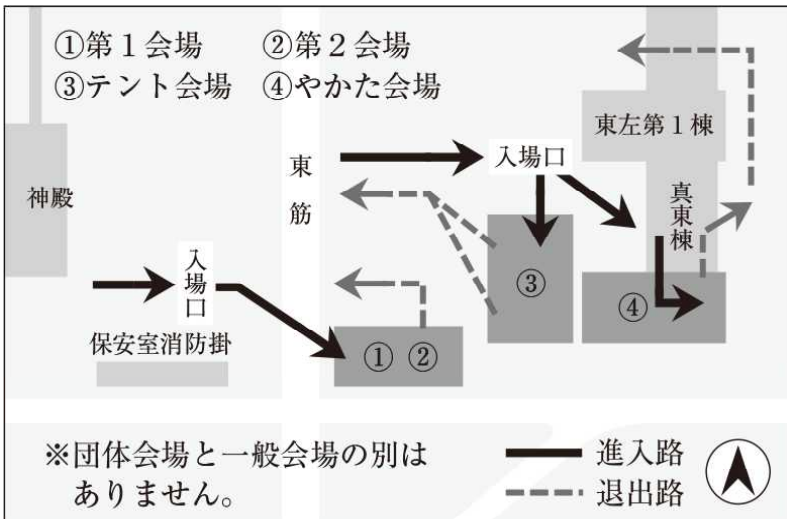
春季大祭 1月19日(日) 午前9時～
婦人会例会 1月9日(木) 午前10時～

来年令和7年の本部お節会に富石としての団参はありません。個人券を用意しますので、期間中にどうぞ初詣とお雑煮をお楽しみにご参拝下さい。

本部お節会 入場無料

【期日】1月5日(日)、6日(月)、7日(火)
【時間】午前10時～午後1時
【会場】第1会場(第1食堂)、第2会場(第2食堂)、テント会場(おやさとやかた東右第1棟西側)、やかた会場(おやさとやかた東右第1棟2階、3階、地下1階)

全国各地から本部神殿にお供えされた鏡餅が、1月4日の「鏡開き」で食べやすい大きさにまで切り分けられ、すまし汁のお雑煮として振る舞われます。教祖ご在世の時代から1世紀を超えて続いている、親里の伝統行事です
●会場出口において、袋入りのお下がりのお餅をお渡しします。



↑お節会会場案内図

1月は春季大祭です。立教188年は教祖140年祭まであと1年となります。各地の教会も1月は140年前の「扉ひらいて今からたすけにでる」と定命を25年縮めてせかいたすけに出られた教祖の思いに応えるように祭典を執り行います。

1月19日・26日は日曜日に当たります。どうぞ、教会、おちばにご参拝下さい。

本部春季大祭

1月26日〔日〕11時30分～
富石分教会 春季大祭

1月19日〔日〕9時～

この日祭典後、伏井和典1年祭を行います。ご参拝のほどよろしくお願ひします。



今日の
おやのことば



「成るよう行くよう」

成るよう行くよう、

今年行かねば来年々々。

随分案じ無きよう心を治めてくれ。

おさしづ 明治24年5月10日

早いもので、今年も残り2週間ほどになりました。あつという間の一年でしたが、振り返ってみると、いろいろなことが思い出されます。予定通りに実現できた計画もあれば、予想外の出来事に戸惑うこともありました。

過ぎゆく年に思いを馳せながら、「おさしづ」を拝読して目に留まったお言葉です。

「成るよう行くよう、今年行かねば来年々々。随分案じ無きよう心を治めてくれ」

毎年のことですが、一年を振り返って感じることは、人生は思い通りにならないということです。すべてを計画通りに進めることが求められる事業計画でも、必ず不慮の出来事やミスに対応する必要に迫られます。まして個々の人生のシミュレーションなどは、予定通りに進まないのが当然なのかもしれません。

「成るよう行くよう……」。今年も何かあるたびに、他人に語り、自分にも言い聞かせてきたお言葉です。

人生の問題は、人間思案で解決できることは少ない。それでも、やるべきことは精いっぱい努力したうえで、あとは親

神様のご守護にもたれて生きていく。こんな気持ちの切り換えができるのも、やはり信仰のおかげです。

親神様のご守護を身を感じる時、今年も良い年であったと思えます。この気持ちを忘れなければ、きっと来年のいまごろも、過ぎゆく年に感謝できることでしょう。(岡)

おさしづ 明治二十四年五月十日 東京中台勘蔵身上の願

さあ／＼遠く一つの理、諭する／＼。一寸には内々事情、どういう事である、どういう事でこうあろう。これまで深き中の理、事情受け取る処だん／＼運び、これから何でも十分受け取る。尽す処さら／＼持たず、日々処人々事情案じる。一寸の理一寸の理治まり難(がた)ない。今まで伝い、日々尽し年々尽し、よう／＼日を経つ。又候(またぞろ)どんとはな。どういうもので、一度一つの事情、日々の心に掛かる。又候(またぞろ)どんとはな。どういうもので、一度一つの事情、日々の心に掛かる。又候(またぞろ)どんとはな。どう案じ無きよう。成るよう行くよう、今年行かねば来年々々。随分案じ無きよう心を治めてくれ。



成るよう行くよう・・・

今年を振り返ると、まさにこのことばか沁みてきます。前年12月25日から入院して年明けからリハビリを行えるかと思われた弟が出直しから始まり、夏頃から体調が優れておられなかったようぼくさんが、立て続けに出直されて本当に心痛の一年でした。

ただ、弟の出直し後の各種事務処理において、様々なことを改めて知ることが出来たこと等は、その後のようぼく家庭の方にとっての一つの参考事例となったと喜ばれました。

葬儀や告別式についてはある程度ネットにも情報があるのですが、その後の事務処理についての記載は少ない。また、天理教〔神式〕での準備しておくべき事などもまとめられた物が少ないこともわかりましたので、私なりの参考事例ではありますがまとめて教会のホームページに掲載しました。祭文なども教会のサーバーに保存して一つの文書にまとめることが出来たことで、後に残すことが出来たと思います。

人が何事言おうとも、神が見ている気を静め

この言葉とも繋がることだと思えます。個人的にいろいろなことを言われることがある、誹謗中傷もある、しかし、もし自分が義を信じて行っていることであれば、それは、神様がしっかり見て受け取って下さっていると。もし出来ないときは、神様が止めたのだと。人が見聞き出来るのは、その瞬間だけでありそのことだけで自分の経験で誹謗中傷してしまうのだと考えると、何事言おうとも、そよ風に吹かれるように聞き流すことが肝心。神様は魂に刻まれた一人一人の生きて考え行ってきた記録を見る事が出来るから、的確に導こうと守護される。

教祖年祭まであと1年。何が出来るのか全く判らない。しかし、人が喜んで笑顔になるように活動していきたい。まだ見ぬ世界、楽しみながら喜びの種を蒔きましょう。

教祖伝逸話篇

7.真心の御供

中山家が谷底を通っておられた頃のこと。

ある年の暮れに、一人の信者が立派な重箱に綺麗な小餅を入れて、「これを教祖にお上げして下さい。」と言って持って来たので、こかんは、早速それを教祖のお目につけた。すると、教祖は、いつになく、「ああ、そうかえ。」と仰せられただけで、一向御満足の様子はなかった。それから2、3日して、又、一人の信者がやって来た。そして、粗末な風呂敷包みを出して、「これを、教祖にお上げして頂きます。」と言って渡した。中には、竹の皮にほんの少しばかりの餡餅が入っていた。



例によって、こかんが教祖のお目につけると、教祖は、「直ぐに、親神様お供えしておくれ。」と非常に御満足の体であらせられた。これは、後になって分かったのであるが、先の人は相当な家の人で、正月の餅をついて余ったので、とにかくお屋敷にお上げしようと言うて持参したのであった。後の人は、貧しい家の人であったが、やっとのことで正月の餅をつくことが出来たので、「これも、親神様のお陰だ。何は措いてもお初を。」というので、そのつき立てのところを取って、持って来たのであった。教祖には、二人の人の心が、それぞれちゃんとお分かりになっていたのである。こういう例は沢山あって、その後、多くの信者の人々が時々の珍しいものを、教祖に召し上がって頂きたい、と言うて持って詣るようになったが、教祖は、その品物よりも、その人の真心をお喜び下さるのが常であった。そして、中に高慢心で持って来たようなものがあると、側の者にすすめられて、たといそれをお召し上がりになっても、「要らんのに無理に食べた時のように、一寸も味が無い。」と、仰せられた。

22.おふでさき御執筆

教祖は、おふでさきについて、「ふでさきというものありませんがな。あんた、どないに見ている。あのふでさきも、一号から十七号まで直きに出来たのやない。

神様は、『書いたものは、豆腐屋の通り見てもいかに。』と、仰っしゃって、耳へ聞かして下されましたのや。何んでやなあ、と思いましたが、神様は、『筆、筆、筆を執れ。』と、仰っしゃりました。七十二才の正月に、初めて筆執りました。そして、筆持つと手がひとり動きました。天から、神様がしましたのや。書くだけ書いたら手がしびれて、動かんようになりました。

『心鎮めて、これを読んでみて、分からんこと尋ねよ。』と、仰っしゃった。自分で分からんところは、入れ筆しましたのや。それがふでさきである。」と、仰せられた。これは、後年、梅谷四郎兵衛にお聞かせ下されたお言葉である。

たふでさき

1 1月4日 ようぼく一斉活動日 講話原稿

こんにちは、今日こうして、ここに集いお互い貴重な時間を過ごすことができることにまず感謝します。能登半島では1月の地震の傷が少し回復したかというときに追い打ちをかけるように、9月の大水害が発生し、今も多くの人が避難所や自宅で苦しんでおられます。こうしてここに集い同じ時間を共有できることは、とても幸せなことなんだと改めて胸に刻んで戴いてお話を始めたいと思います。

では、手を合わせて下さい

世界では多くの方が戦争や災害でその日を生き延びるのさえ苦しい中を必死で生き抜いておられる人々や、日本各地でも被災しその中から立ち上がろうとされている人々が大勢おられます。そして今ここに来られている方々の悩みや苦しみが少しでもいえますように願いを込めて・・・拍手 ありがとうございます。

1. 夏長崎からでのこと

私は、昔8月6日広島の日長崎で開催される夏長崎からというさだまさしさんが行っていた野外コンサートに約20年通いました。まあそこで嫁さんとも知り合ったのですから長崎は今でいうところの聖地ともいえる場所になります。

その夏長崎は無料のコンサートでした。さださん曰くなぜ無料にしたのかといえば、家族で見に来てもらいたかったと、そして、コンサートでは、核廃絶や戦争反対という言葉を使わないようにした。ただ、毎回言い続けたのは、このコンサートが終わるまでの間、ほんとひとときでもいい、自分の家族や愛すべき人たちの笑顔を守りたい。そしてその笑顔を守るために自分に何ができるのかを少しでも考えてほしい。その思いが広がれば自然と争いがなくなるのではないかと。と思うと。



この言葉の真意はひとたすけたらわがみたすかるに通じると思います。自分の周りの大切な人を笑顔にするためには互いに助け合うことが大事になるからです。そして開講時に皆さんと願い祈ったように、他の人の助かりをお願い祈ることから、その思いを受け取ってくださることはいうまでもありません。

こうして皆さんと一緒に同じ時間を過ごすこと。先ほどのコンサートに出かけたり家族で買い物に出かけたりできることがありがたいことだと感じたことはありませんか？



そう、もう4年前になりますか、日本にコロナという疫病が流行したとき、行動の自由が奪われました。普段何も不自由に思わないで行ってきたことがすべて止められました。コンサートや講演会、人が大勢集まってはいけないということから、教会でのお勤めも形を変えて行うことになりました。当たり前だったことがあたりまでなくなったときでした。

2. 大切な人の笑顔を守るために



ちょっと重い話が続きましたので、ここで1曲聞いて戴こうと思います

あ！私が歌うと皆さんかえってしまわれると思いますので、おそらくどなたでもご存じの歌手の岩崎宏美さんで、「残したい花について」

ありがとうございました。

歌を聞かれていろいろ感じられたことと思います。

人生、生きるということ、いのち、家族の笑顔。聞きながら思い出された方もおられたのではないのでしょうか？

歌詞の中に、悔しかったことや傷ついたことやそんなものは残さない、忘れることにしよう・・・良いことだけ残そう

嫌なことは置いておこう精一杯生きているのだから とあります。

一日一日を大切に生きていくための秘訣だと思います

また、明日の記憶があると心構えができる反面、良いことも悪いことも知ってしまうのはつらいことと歌っています。未来は明るく陽気にときめくものだけでいいと。

そして大切な人の笑顔があればいいと。

陽気ぐらしを目指すと言うことはこの歌のように、だれかの笑顔をして自分の笑顔を忘れないように生きていくことなのかもしれません。

一度目を閉じて あなたの大切な人の笑顔を思い出してみてください。

今思い出した大切な人の笑顔。その笑顔を思い出したとき、胸がなぜか熱くなったり、気持ちがほっとしませんでしたか？

それが、こころの誠真実のひとつなのだと思います。

今は自分の大切な人でしたが、人を助けるこころの誠となると、毎日誰にでもその笑顔のこころで接することができるのかということになります。すぐにはできないでしょう。しかし、災害救援ひのきしんで活動するときなど、全く他人の方からひのきしんを通じて、ありがとうと感謝の言葉とともに笑顔が生まれたとき、こころの誠の花が咲いたといえるのでしょうか。それぞれが今自分のできるこころの誠で行うことから、いつの間にか笑顔の輪が広がって行くと思えます。

3. みなめいめいにこころちがうで

おふでさき 第五号八に

おやこでもふうふのなかもきょうだいも みなめいめいにこころちがうでとあります。以前、娘が友人のおまもりをいただく時に同席をしました。



そのとき、教祖殿でお話をとり継いでいただいているときに、そのおまもりをいただく友人の頭上から体を包み込みコーティングするように何かが流れているように見えたそうです。そしてそれはいつも同じものではなく、その人一人一人に会うようにオリジナルに調整されたものようだったと。

神様からいただくとき、その人のこころを見澄ませていただくのだと感じたそうです。

まして、おさづけは、別席のお話をしっかり聞いてその姿やここに至るまでのこころをみさだめて戴くのです。こころの成人が試されるのかもしれない。

こころとは、自分で自由に使うことができる。体は神様からのかりものなので、自分のもののように自分のものでない。

こころは人からは具体的に見えないものといえます。

みなめいめいにこころちがうで と示されています。

人それぞれのこころは、その人がそれまでに生きてきた中で体験したこと、楽しかったことや苦しかったこと、悲しかったこと、感動したこと、怒ったことや泣いたことなどなど、他人にはわからない経験をしてできています。あくまでもその人しか知らない出来事ばかりです。それらの出来事でなにがしかの判断をするときに、実は、神様が手紙を出しているのだと思います。

そのときの判断は自分が考えて心で決めて行動していると思います。

選択肢も実はいくつもあると思うのですが、そのときの状況によっては、全く思いつかないで無意識のうちに選んでいることもあると思います。

あるとき、とあるネットのグループ内で名指しで罵倒されたことがあります。

多分昔の私なら瞬間湯沸かし器でしたからいいかえしていたと思います。最悪は喧嘩騒動になっていたことでしょう。しかし、私とその罵倒した人のことをどれだけ知っているのかを冷静に考えたとき、全く知らないと言ってもいいことに気がつきました。

逆もまたしかりで、罵倒した人が私のことをどれだけ知っているのかと考えると全く知ら





ないはずだと、じゃなぜ罵倒されたのか、その人の考えだけで、今このときだけを抑えて、罵倒したのだとわかったのです。それに私は気がつきましたから、これは神様からの手紙の一つ、さあどうする？と。神様は、それぞれの今までの人生経験をすべて知った上で試されます。ここで喧嘩したのでは、陽気ぐらしへはほど遠いことになります。

きっとどこかで私がだれかに同じ言葉ではないにしろいい思いをさせなかった事があったのだと、そのときの相手の気持ちを考えることがまず大事だと、今更ながら反省したので

す。神様は、時空を超えて働きくださっています。しかも、信じている人の心すべてを理解し把握して適切に手紙を出されます。

人は自分のことでさえ昔のことを忘れてしまうものですが、神様の帳簿にはきちんと残されていて、このタイミングでこの手紙を出してどこまでこころの成人が進んだのかを試されているのだと思います。

となると、先人の諸先生方がよく言われたように、足を踏まれて怒るのではなく、よく踏んでくださりました、ありがとうございます、というところにつながるのだと思います。

残念ながら人は、他人の記憶を遡ってこれが原因であなたのこれが悪いと指摘することはできないが、実のところ大切なのだと思います。それができるのは、神様だけですから。

誠の心を見定めるのは、人ではなく神様だと言うことを、いつも意識しておかないと、気がつくについ、あなた理作りが不足しているからとか、理立てが足りないからと見えたようなことを言うことになります。それを判断するのは人ではなく神様なのですから、その人がどれだけ今までにこころを造って人を元気に笑顔にしてきたかは、他人にはわからないということなのです。

まさに「人が目どうか神が目どうか」と言うことになると思います。

4. 笑顔の輪を広げていこう

さて、いろいろなお話をさせて戴きました。

何かこころに残るところがあったでしょうか？

あなたの大切な人の笑顔思い出せましたか？

その笑顔を守るためにできることは思いつかれたでしょうか？

どうしたらいいのかわからない。そんなときは、朝夕お勤めをしましょう。

神様をお祀りしているのならその前で、近くの教会に参拝されてもいいでしょう。それは少し恥ずかしいと言うときは、自宅から、おちばにむかってでいいとおもいます。

おつとめをするときに、大切な人のことを思い出しこころを添えておつとめをしましょう。きっと心が安まることでしょう。もしできるなら、向こう三軒両隣とも昔から言われる範囲でいいと思いますので、少し掃除を試してみるのもいいと思います。ただ掃除するのではなく、きれいになって喜んでもらえることを思い描きながらすると、自然と笑顔になることでしょう。それは幸せの種まきとなります。

そして、能登をはじめとする被災地ではまだまだ支援を待っておられる方がたくさんおられます。実際に向かうのは難しくとも、災害救援ひのきしん隊を寄付で応援することや、ボランティア団体やひのきしんなどに行かれる方に援助したりすることも大切なことだと思います。ひとたすけたらわがみたすかる。この言葉をしっかり胸に刻んでたすけあいの輪を広げて年祭まで勇んで務めていきましょう。

最後に 世界では多くの方が戦争や災害でその日生き延びるのさえ苦しい中を必死で生き抜いておられる人々や、日本各地でも被災しその中から立ち上がろうとされている人々が大勢おられます。そして今ここに来られている方々の悩みや苦しみが少しでもいえますように願いを込めて・・・柏手 ありがとうございます。(11月4日錦分教会にて講話)

